

大倉陶園 ものづくりの系譜

はじめに

大倉陶園は 1919 年に大倉孫兵衛・和親父子により創立致しました。以来、『良きが上にも良きものを』という創立の理念に沿い、一貫して美術的価値の高い硬質磁器を作り続けて参りました。『色の白さ・磁器質の硬さ・肌の滑らかさ』を追求し続け、その作品は日本の文化と伝統に裏付けられた高級美術食器として、皇室をはじめ日本国迎賓館や一流ホテルなど各方面でご愛顧いただいております。伝統の技術を守るだけでなく、創立者のものづくりの心を引き継ぎ、新たなる挑戦を常に試みております。



大倉孫兵衛 (1843-1921)



大倉和親 (1875-1955)

美術陶器工場

是は利益を期して工場を起す事出来ず。寧ろ道楽仕事につき一人の獨業として他に迷惑を掛けぬ趣向でなければ思ふ様な道楽は出来ぬ。依て他に關係なく獨立にて作るを良とするものなり。全く商賣以外の道楽仕事として、良きが上にも良き物を作りて、英國の骨粉焼、佛國の「セーブル」、伊國の「ジノリー」以上の物を作り出し度し。利益を思ふてはとて此事は出来ぬ故、全く大倉の道楽として此上なき美術品を作り度し。既に蒲田に一萬三千坪許りの地を買入れたるにつき、此地に工場と共に別荘の如き見本場を作り、花壇も作り、工場からして美術の工合に作り度き事、此事は萬事和親に任せ、日野氏茲に来て圖案設計を始める。

大正七年七月十八日 大倉孫兵衛 手記 時年七十六

グループ企業について

大倉孫兵衛・和親父子は、食器だけでなく、陶磁器製品として衛生陶器、送電用碍子、点火栓（スパークプラグ）の製造も手がけるようになります。事業の成功と発展のためには、それぞれの事業に専念すべきと考え、食器事業を日本陶器株式会社、衛生陶器事業を東洋陶器株式会社、送電用碍子事業を日本碍子株式会社、点火栓事業を日本特殊陶業株式会社に分離独立させました。

それぞれに特化した陶磁器製品を扱う企業を作り上げ、国益に寄与していく一方、より一層美術的価値の高い磁器を作ることを目的に、大倉陶園を創立しました。

森村組をルーツとした、森村商事株式会社、ノリタケ株式会社、TOTO株式会社、日本ガイシ株式会社、日本特殊陶業株式会社、株式会社大倉陶園の各社で、世界最大のセラミック集団を構成しております。

グループ企業の主な沿革

